

投資銀行業務を行うドーガン・アドバイザーズ（福岡市）は5日、九州の中堅成長企業を対象に、経営戦略の立案、実行を支援するサービスに乗り出したことを明らかにした。

従来は、財務面の助言が中心だったが、新事業のアイデア提案や、商品のブランド力向上など、戦略面のサポートを強化する。大手コンサル、日本総研（東京）出身の洸上順一郎部長を中心に、1月に「戦略アドバイザーリー部」を設けた。

提供するのには経営戦略や事業計画の策定支援、合併

経営戦略支援 ドーガン開始

福岡市、新サービス

・買収（M&A）助言、業界動向や市場調査受託、不動産の売買支援など。外部専門家とも連携。大手コンサルの半分ほどの料金で提供する。

必要に応じて、子会社のファンド運用会社、ドーガン・インベストメンツ（同市）が運用するファンドを通じて、資金提供も受けられるという。

対象は売上高10億円超の成長途上の中堅企業、売上高が頭打ちの老舗企業などを想定。洸上部長は「自社の『経営企画室』として活用してほしい」と話している。

戦略コンサル参入

ドーガン 事業設計など後押し

中小企業の経営支援などを手掛けるドーガン・アドバイザーズ（福岡市、森大介社長）は中堅企業の戦略コンサルタント事業に参入する。「戦略アドバイザーリー部」を1月に新設、本格稼働を始める。これまで同社は財務面のコンサル事業を専門にしてきたが、今後は事業設計や商品開発などの競争戦略支援を通じて市場企業の経営拡大を後押しする。

九州・沖縄を中心に売上高10億～100億円規模の企業が主な対象。料金は「相場の半額程度」（同社）で、大手コンサルへの依頼が難しい企業の需要を取り込む。具体的な支援内容は主に戦略策定、計画策定、M&A（合併・買収）支援、リサーチ・受託調査、不動産仲介などの5分野となる。

同社は全額出資子会社のドーガン・インベストメンツが運営し、西日本シティ銀行や九電工などが出資するファンドなどを通じてM&A仲介などを手掛けている。